

『仁和寺史料 古文書編二』の刊行

歴史研究室では、全国各地の寺院が所蔵する古文書について調査研究を進めています。中でも、京都市右京区御室にある仁和寺所蔵の古文書については、1958年より調査を進めてきました。調査開始から55年を経た2013年、長年にわたる調査研究の成果として史料集『仁和寺史料 古文書編一』を刊行しました。その後、2020年3月に続刊である『仁和寺史料 古文書編二』を刊行することができました。

古文書の多くはくずし字で書かれています。これらを解読するところから史料集を作る作業は始まるのですが、これがなかなか大変です。解読した後は文中の内容について検討をすすめ、いつ・誰が・何を言っているのかあきらかにしていきます。また、こうした根気と時間のいる作業にくわえ、文書の寸法や紙質など古文書の重要な情報についても集約して掲載します。以上のような一連の作業を経て、史料集はできあがっていきます。

本書では、主に室町時代から江戸時代の古文書を収録しています。朝廷や武家など時々の権力者との関わりを示す文書が数多く含まれ、織田信長や明智光秀といった有名人も文中に登場します。仁和寺は別称を御室と言いますが、これは元々天皇の居所があったことに由来しています。その後も皇族が代々の住職をつとめるなど寺院としての格が高く、皇室をはじめとする権力と密接な関係にありました。本書の刊行により、こうした仁和寺と中央権力とのさらなる関係が解明されていくことが期待されます。

なお、本書は吉川弘文館より発売されております。ご興味のある方は、お手に取っていただければ幸いです。(定価 税込¥12,000) (文化遺産部 橋 悠太)



『仁和寺史料 古文書編二』